授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2628 号

Current Situation and Problems in Diagnosis of Early Chronic Pancreatitis

早期慢性膵炎診断の現状と問題点

伊藤 光一（いとう こういち）

博士（医学）

論文内容の要旨

慢性膵炎は不可逆的な病態であり、糖尿病や膵癌といった合併症により予後不良な疾患である。その予後を改善する目的で、日本膵臓学会は 2009 年に早期慢性膵炎 (early chronic pancreatitis; ECP)の概念を提唱した。しかし、その病態は未だに明らかとなっていない。

ECP は画像所見と臨床的な診断項目を満たした時に診断される。膵管の所見に乏しいため画像診断には超音波内視鏡検査 (endoscopic ultrasonography; EUS)が重要である。本研究は症状と EUS の所見に注目して ECP 診断の現状と問題点を明らかにすることを目的とした。

2019 年 4 月から 2021 年 11 月までに当院で EUS を実施した 2502 例を 1) 有症状群 (54 例)、2) 膵酵素異常群 (61 例)、3) 1)、2)以外の理由で ECP が疑われた群 (145 例)、4) ECP 以外の理由で EUS を実施した群 (2242 例)、に分類した。全例の EUS 所見を見直し、ECP に特徴的な所見を認めた 150 例を対象とした。40 例はアルコール性、110 例は非アルコール性であった。

慢性膵炎臨床診断基準 2019 に基づいて診断し、14 例 (9%)は ECP の確診であり、アルコール性が 9 例 (9/40: 22.5%)、非アルコール性が 5 例 (5/110: 4.5%)であった。ECP の疑診は 43 例 (28.6%)であり、22 例がアルコール性 (22/40: 55%)、21 例が非アルコール性 (21/110: 19%)であった。設定した 4 群それぞれで ECP に特徴的な画像所見を認めた症例数、確診、疑診の診断になった症例数は、1) 25 (46%)/8 (15%)/15 (28%), 2) 2 (3.3%)/0 (0%)/1 (1.6%), 3) 20 (14%)/3 (2.1%)/8 (5.5%), 4) 103 (4.6%)/3 (0.13%)/19 (0.85%) であった。また、膵由来の症状を有すると考えられた 21 症例の中では 10 例 (48%)が ECP の確診となった。

非アルコール性の症例において ECP と診断される割合は低率であった。しかし、有症状群、特に膵由来の症状を有する症例では比較的高率であった。適切な診断のために、症状をはじめとした診断項目の妥当性を検討する必要があると考えられた。